



自衛隊栃木地方協力本部

「職業人へインタビュー」 ～出身地で自衛隊の魅力を語る～

自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所（所長 松田1陸尉）は、1月16日（金）、佐野市立犬伏小学校で実施された、講座「職業人へインタビュー」に佐野市出身の広報官、平井1空曹が講師として支援した。

「職業人へインタビュー」は、総合的な学習の時間に『将来の夢に向かってさまざまな職業の人々とかかわろう』を目的として掲げ行われている。今回は2日間に分け、看護師、農業、建築士、小売業等の16名の職業人が講師となった。

今回の依頼は、以前に参加した佐野小学校の「職業人へインタビュー」の好評を聞きつけた犬伏小学校のボランティアコーディネーターからの急遽の依頼で実施する運びとなった。

自衛官の講座では、30名の児童たちに、紙芝居を用いてプレゼンを実施し、自衛隊の仕事、隊員の生活、経験談等の話に親近感を持ってくれた様子で、興味深く話を聞いてくれた。「南極の氷」体験では、海上自衛隊の活動の話に感銘するとともに自然の壮大さを感じてくれた。また、迷彩服試着体験では敬礼のポーズをとるなど、楽しみながら参加してくれていた。参加者からは「自衛官としてのやりがいは何？悩んだことは？休みの日は、なにしていますか？」など、たくさん質疑応答を経て盛況のうちに終了した。

依頼を受けた平井1空曹は、「今回は、自衛隊のことを知ってもらうことができて大変良かった」と話した。

大田原地域事務所は、「今後も身近に感じてもらうとともに「知ってもらおう」広報で邁進していく」としている。

高根沢高校課題研究等校外発表会

「プロポーザルたかこう2026」に参加して

自衛隊栃木地方協力本部大田原地域事務所（所長 松田1陸尉）は、1月20日（火）、栃木県塩谷郡高根沢町に所在する『道の駅たかねざわ』で実施された「令和7年度 プロポーザルたかこう2026」に参加した。

『令和7年度 プロポーザルたかこう2026』は、高根沢高校の課題研究等校外発表会であり、高根沢町副町長をはじめ町議会議員、教育長、インターシップ参加企業などが招かれていた。自衛隊のインターシップ参加学生の発表では、「様々なところで、装備品の見学や体験ができてためになりました。自衛官は、いざという時に活躍できる仕事」と語ってくれたことが印象的であった。

参加した広報官の平井1空曹は、「インターシップを通じ、将来の職業の選択肢になってくれれば嬉しい。高根沢高校の発表会において地域に根付くことの大切さを感じた」と話していた。

大田原地域事務所は、「今後も地域に根付くように活動をしていくとともに自衛隊の魅力を発信していく」としている。